

2024 年度 (令和 6 年度) 学校評価自己評価表

神辺 中学校区

校番 78 福山市立 中条小 学校

最終更新日 2024年(令和 6年) 4月 1 日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	
前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
○多様な児童生徒に対して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、「子ども主体の学び」全教室展開に向けた取組を進めている。 ○異学年交流等、望ましい集団づくりに向けた教育活動を進め、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める工夫をしている。 ●すべての子どもたちが「学びが面白い」と実感し、子どもの居場所づくりの取組を進めてほしい。	○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える、選ぶ、決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。 ○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。 ●安心して学校生活を送ることができる環境づくりに継続して取り組んでほしい。
育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション 人としての思いやり
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	共に学び、共に支え、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒
中学校区として統一した取組等	○児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○校種・教科・領域をこえた合同研修を行う。

Ⅲ 自 校

ミッション	
地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する、	

学校教育目標	
自分を磨き ともに学び支え合う児童の育成	

現 状	
〈児童生徒〉 ○「思考・判断・表現」の位置付けを明確にした単元構想や個別最適な学びと協働的な学びとの双方向での学びを進めることにより、学びにおける児童の肯定的評価が伸びてきている。⇒88.5% ○授業や行事においてリフレクションに取り組むことで、自己肯定感や自己有用感が高まり、学習や生活に生かそうとする児童が増えてきている。⇒86% ●自分の課題や追求してみたいことを見つけることに苦手意識をもつ児童が多い。⇒肯定的評価73.1%	→
〈授業〉 ○育成する資質・能力に係る教科横断的な単元構成を考え「思考・判断・表現」の位置付けを明確にした授業づくりについて意識が高まってきた。 ●リフレクションを生かすことができる個別最適な学びと協働的な学びにおける授業改善に繋がっていない。	→

育成する力 (21世紀型 “スキル&倫理観”)		A コミュニケーション B 人としての思いやり C 課題解決力
めざす 子ども像	1・2年	A 人の話をしっかり聴くことができ、自分の考えを順序に気をつけて伝えることができる。 B 自分や友だちのがんばりやよいところを見つけることができる。 C 思いや願いの実現に向けて、自分の課題をもち、いろいろな方法を使って考えることができる。
	3・4年	A 自分の考えをもち、根拠をもとにわかりやすく伝えることができる。 B 相手の立場になって考え、お互いのよさを認め合うことができる。 C 見方や考え方を広げながら課題を設定し、見通しをもって課題を解決することができる。
	5・6年	A 友だちと自分の考えの相違に気をつけて聴き、筋道を立てて話すことができる。 B 一人一人の個性を理解し、認め合うことができる。 C 物事を多面的に見たり考えたりして課題を設定し、整理・検討・修正し、よりよい解決方法を考え、実行することができる。
研究	テーマ	主体的に学ぶ子どもの育成～学びを充実させる授業の3Kを通して～
	内容等	○学びに向かう態度や学びを調整する力を涵養していくリフレクション力の高まり ○特別支援教育を生かした個別最適な学び
めざす授業の姿		◇リフレクションを通して自己認識・自己調整・他者理解が深まる授業 ◇個別最適な学びと協働的な学びの双方向での学びの中で自らが学びの主人公として追求していく授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		中条小		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	○「子ども主体の び」～特別支援教育 を生かした個別最適 な学びの推進～	★		主体的に学ぶ児童を 育成するために、学 びを充実させる授業 の3Kを踏まえた授 業づくりを行う。 ・教材研究 ・関係性 ・環境整理	①育成したい資質・ 能力を基に教科横断 的な視点で相互の関 連付けや手立てを考 える。 ・家庭学習 ・読書活動 ②ねらいに応じて自 己選択自己決定しな がら学びに向かえる よう個別最適な学び となる授業づくりを 追及する。 ・リフレクションを 通した学びの調整 ③児童の運動意欲・ 体力の向上 ・各学期に1回は、 体育の授業改善をね らいとした授業交流 を行う。 ・課題種目を設定 し、委員会活動を中 心に、様々な運動や 体を使った遊びを企 画し、楽しみながら 体力の向上が図れる ようにする。	○児童アンケートで 学びに関する質問に おいて、肯定的評価 を85%以上にす る。 ○学力の伸びを分 析、検証していく場 の設定 ・年間を通して ・学力調査等正答率 40%以下の児童の 割合 ○児童アンケートで 「運動やスポーツを 全くしない」と答え る児童を8%以下に する。									

3	○望ましい集団づくりの実現 ～自分を磨き、ともに学び支え合う児童の育成～			児童同士、地域や専門家等との関りを通して学び合い、自己及び集団のよりよいあり方について考える児童の育ちを支援する。 ・自治活動	①リフレクションの更なる充実 ・個人やクラスのリフレクションを共有できる場を設定することにより、異学年における望ましい集団づくりを進める。 ・自他への理解を深めるために、児童相互の意味付けや価値付けを行う機会を増やす。	○児童アンケートで自己肯定感・自己有用感に関する質問において、肯定的評価を85%にする。 ○児童のリフレクションを分析し、自他への理解が深まっていると捉えることができる児童を85%以上にする。										
	○信頼される学校づくり ～学ぶ実感・やりがいの実感～		継続	教職員のやりがい・充実感の向上を図る	①子どもと向き合う時間の確保 ・子どもと向き合う時間の確保につながる業務改善の具体に取り組む。(下校指導・会議の時間厳守等) ②カリキュラムの交流時間の設定 ・カリキュラムマネジメントの交流の時間を設け、効果的な学びを推進していく。 ③学校教育活動に対する保護者や地域の方の思いや意見を把握する。	○教職員の時間外勤務時間月45時間未満を100%にする。 ○教職員アンケート「『子どもが自ら学ぶ』授業づくりにあてて時間がある」, 「充実感とやりがい」【個性が認められている】における肯定的評価を90%以上にする。 ○保護者アンケート「満足度」90%以上にする。										

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。